



## ●先生のおすすめ絵本●

おいも！



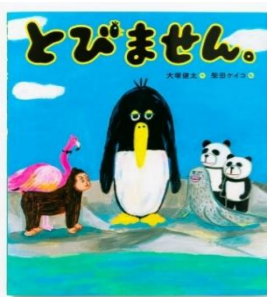
文：石津ちひろ 絵：村上康成 出版社：小峰書店

秋の楽しみおいもほり。男の子と女の子がおじいちゃんと犬のタロと一緒においもほりに行きます。一面に葉っぱが広がる畑を見てどこを掘ろうか、ここ掘れわんわんと楽しそう。長い長い蔓をえいと引っ張ると、土の中から小さいおいも、大きいおいも、色んなおいもが出てきました。おいも～、おいも～、さつまいも～と歌っていたら美味しいやきいもの出来上がり！皆と一緒にぱかっつと割り、ほっくほっく、あつあつ、はふはふあちち。ほっこり美味しそう。出来たてほやほやあつあつのやきいもを食べたら皆もおいもになっちゃった！というお話でした。

「おいも食べたい！」「おいもほり、したいね！」と読み聞かせを聞きながらわくわくしている子どもたち。最後、おいもになってしまうシーンも「えー！」と言い、びっくりしていました。クラスの皆でおいもほりへ出かけるのが楽しみになりました。

<こぼと組 N先生>

とびません。



作：大塚健太 絵：柴田ケイコ 出版社：PIE International

動物園のペンギンの話「ペンギンです。とりです。とりだけど・・・。」「とびません」と繰り返していく話です。フラミンゴに誘われたり、パンダが気球に乗ったり、アザラシが空をとんだり、色々なことが起こりますが、絶対に飛ばないペンギン。そんなペンギンが走り出します。ついに飛ぶかも・・・ページをめくるたびにちょっと期待したくなってしまってお話です。ペンギンの羽は何のためにあるのかな？最後はダチョウが背中に乗せてくれるけど、飛べるのかな？子どもたちに読み聞かせると「とびません」を繰り返しながら楽しめます。結末がわかっているのに何度も繰り返し読んでしまう。面白い1冊です。

<さくら組 I先生>



## 夏休みの読み聞かせカードより



かわいいてんとうむし (作)メラニー・ガース (絵)ローラ・ハリスカ・ベイス (出版社)大日本絵画

はじめは10ぴきいたはずのてんとう虫ですが、動物がやってきて1ぴきずつ消えていきます。「〇〇がやってきて1ぴき消えた。」という文が気に入ったようで、途中から絵を見ながら一緒に「〇〇がやってきて1ぴきが消えた・・・」と楽しく読んでいました。最後は消えたはずのてんとう虫たちがみんな帰ってくるので「なんでやねん！」とツッコミを入れていました。

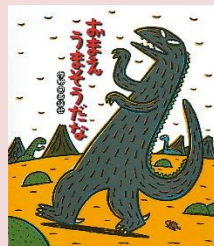
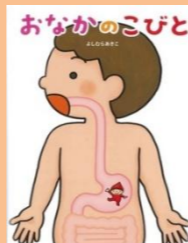
<こぼと組 Mさん>

おなかのこびと

(作・絵)よしむら あきこ (出版社)教育画劇

「きみのおなかのなかには、ちいさなこびとがすんでいるのですって。」小人は、おなかの中でみんなと同じものを食べて、ちゃんと噛み切れないで食べちゃった大きな食べ物を小さくしたり、みんなのために一生懸命働いているのです。それなのに、食べすぎたり、飲みすぎたりすると、..あわわわわ、実に中ではこんな大変なことになっているんです！好きなおかずを食べすぎてしまったり、さっき食べたばかりなのにすぐにおやつを食べたがったり、..それなのに嫌いな食材にはなかなか挑戦してくれない我が子にこの絵本を読んだら、大ヒット！もちろんなんでも食べてくれるわけではないですが、自分の体のこと、おなかのことを少し考えられるようになったみたいですよ♪苦手なお野菜にチャレンジできたら、「おなかのこびとさん、喜んでるねー！」と伝えると、笑顔で「うんっ！」と答えてくれます♡

<つばめ組 Yさん>



おまえ うまそうだな (作・絵)西宮 達也 (出版社)ポプラ社

息子は最初から最後まで真剣にお話を聞いて、とても静かな時間が流れました。読み終わったあと特に言葉にはしなかったけれど、その後も「また読んで」と何日も続けて手に取っていたのが印象的です。私が「本当のお父さんとお母さんに会えたんだね」「ティラノサウルスさんやさしいね」と声をかけると、息子は穏やかな表情でうなずいていました。お話の温かさを一緒に感じているようでした。繰り返し読む中で、息子にとって心に残る大切な一冊になったと思います。

<すみれ組 Jさん>

むしたちのおまつり

(文)得田 之久 (絵)久住 卓也 (出版社)童心社

幼稚園の昆虫展に行く前にもうすこし虫に興味を持ってもらいたいと思い昆虫展に行く前日の夜はむしたちが主人公の絵本を選びました。むしたちのおまつりはカミキリムシの葉っぱのおめんやさんやケラのトンネル迷路、テントウムシの模様合わせクモの巣トランポリンなど、それぞれの虫たちの特徴や特技をいかしたおもしろい出し物がいっぱい。これを読むといつもは少し怖く見えていた虫たちのおもしろい特徴が知れて、ちょっと興味がわいてくるかも！？息子はこの絵本のすべてのページの絵に登場するアリさんコンビを見つけるのが大好きになって、何度読んでも毎回アリさん探しを全力でやって「見つけたーっ！」と大声でさげんでいました。

<たんぼぼ組 Tさん>



野球しようぜ！大谷翔平ものがり (文)とりこえ こうじ (絵)山田 花菜 (出版社)世界文化社

野球に大ハマリ中の息子は、日々バッティングの練習をしており、この本を読んであげた時とても真剣に聞いていました。特に子供のころどうやって練習したのか、どうすれば上手になれるか、「ごみを拾う」を行っていた大谷選手の話聞き、ぼくも拾う！！やる気になっていました。最後まで読み終えると、バットを持ち出し、バッティング練習をいつも以上のやる気で始めていました。プロ野球選手になるため、本人は毎日大忙しで、この絵本をきっかけにやる気が加速したみたいです。

<もも組 Kさん>

パンどろぼう

(作)柴田 ケイコ (出版社)KADOKAWA

★あらすじ .....  
パンが大好きなパンどろぼう。おいしいパンを盗んでは食べる。ある日、「せかいいちおいしいパンや」のパンを盗んで食べたら・・・まずいパンを改良するために、パンどろぼうとお店のおじさんがタッグを組む。  
★こどもの様子 .....  
ばあばに読んでもらい、最初から最後まで楽しそうに聞いていた。パンどろぼうの、憎めないかわい姿が気に入っているようだった。  
★一番好きなページは？！ .....  
やっぱり、「まずい！！」のところ！！

<さくら組 Tさん>



さよならをいえるまで

(文)マーガレット・ワイルド (絵)フレヤ・ブラックウッド



主人公の男の子ハリーと犬のジャンピーは大の仲良し。ところがある日、ジャンピーは事故にあって死んでしまいます。ジャンピーのにおいや声を思い出し、なかなか死を受け入れられないハリーが、少しずつ死を認め別れを告げるまでの様子を描いた物語です。少し難しい内容かな？と思いましたが、「死」をどのように捉えるのか、子どもの反応を見てみたかったのでこの本を選びました。死んでしまったはずのジャンピーが、ある夜窓の外に現れ、ハリーと遊んだり戯れたりする場面では、「なんか不思議だね。」「夢なのかな？」と娘なりに想像を膨らませていました。我が家では犬は飼っていませんが、ペットの犬が死んじゃったらどんな気持ち？と問うと、「かなしい。」と死を悲しむ姿も見られました。悲しく切ないけれど、最後にはほっこりした気持ちになり、大人も楽しめる絵本でした。

<ふじ組 Bさん>



## ぶれーめんからのお知らせ

●新書加入のお知らせ

10月より絵本の部屋に33冊ほど新しい本が加わりました！今回はシリーズもの多めです。ぜひ手にとってみてください！

●絵本・児童書の寄付のお願い

秋のこどもまつり当日に、プレーメンでは古絵本市を開催します。販売用の絵本・児童書の回収を行いますので、寄付のご協力をお願いします。詳細は別紙をご参照ください。

※紙面で紹介している絵本の表紙画像の掲載には、出版社の許諾をいただいております。

## 編集後記

今年の夏休みもとても暑かったですね。猛暑日が続く外遊びが難しいこともあり、おうちや図書館でたくさんの絵本と触れ合えたご家庭も多かったのではないのでしょうか？

絵本の読み聞かせをする中で、普段とは違う表情や反応を見せる子どもたち、またその様子を見ている大人たちも、楽しい時間を過ごせたのではないかと思います。絵本を通じて生まれる親子の特別な時間を大切にしたいと、改めて感じました。

今月から、絵本の部屋に新しい本が加わりました。図書館でなかなか借りられない本や、発売されたばかりの面白い絵本もあります。ぜひぜひ、絵本の部屋に遊びに来てくださいね。

<ぶれーめん役員 B>